

工学部応用化学科衣本助教，豊田教授らの論文が 米国化学会発行の ACS Sustainable Chemistry & Engineering 誌の表紙を飾ります。

本学工学部応用化学科の衣本助教，豊田教授らの竹を固体高分子形燃料電池に利用する研究論文が，米国化学会が発行する論文誌である ACS Sustainable Chemistry & Engineering 誌 2015 年 7 月号 (Vol.3, Number 7) に掲載されるとともに，論文の TOC (Table of Contents) 図が掲載号の表紙として掲載されることになりました。

竹を固体高分子形燃料電池の材料として利用する研究は，世界中で本学のみで実施されている研究内容であり，平成 24 年度から平成 26 年度まで，環境省・環境研究総合推進費補助金の補助を受けて実施されてきました。大分県に豊富で，環境問題の一因となっている竹を燃料電池に利用する研究内容は新規性があります。これまでの 3 年間の研究により，竹を繊維化し，シート状に成型して，炭素化することで，固体高分子形燃料電池のガス拡散層として利用可能であることを示し，その製造プロセスを確立しました。

その研究内容を論文にまとめ，米国化学会が発行する論文誌である ACS Sustainable Chemistry & Engineering 誌に投稿したところ，採択され，その論文の TOC 図 (正式には Table of Contents) のビジュアル，研究内容が高く評価され，掲載予定の 2015 年 7 月号の表紙を飾ることになりました。

世界最大の学会組織としても知られている米国化学会から研究内容が認められたことは非常に光栄なことです。